

経営比較分析表（令和5年度決算）

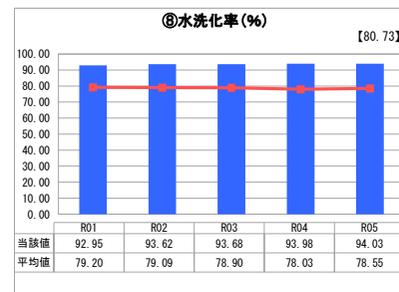
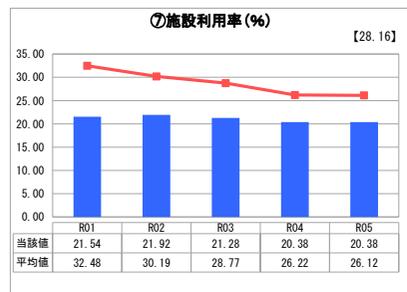
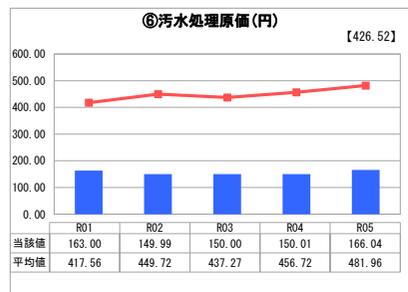
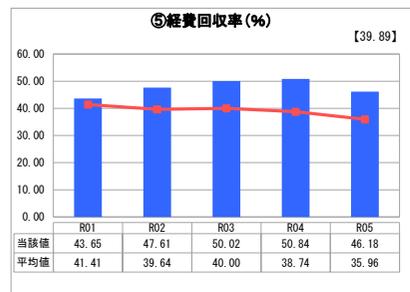
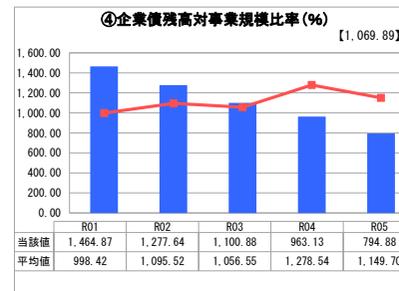
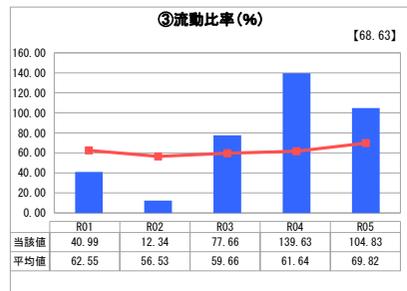
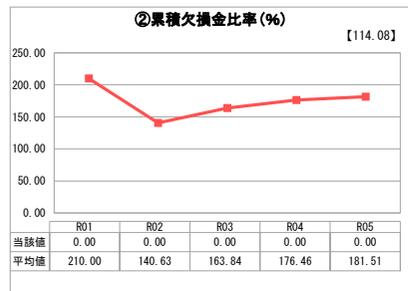
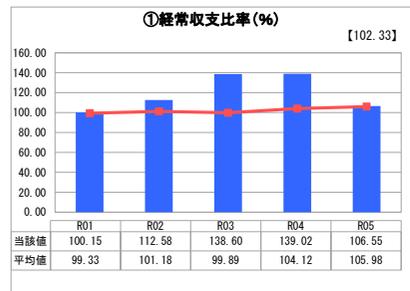
沖縄県 南城市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	漁業集落排水	H2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	91.53	1.66	100.00	1,453

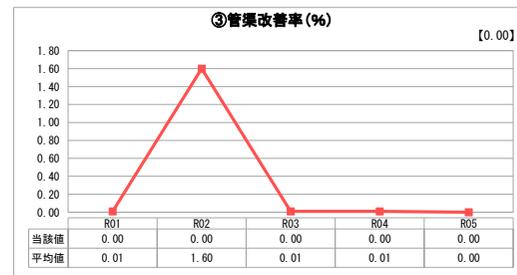
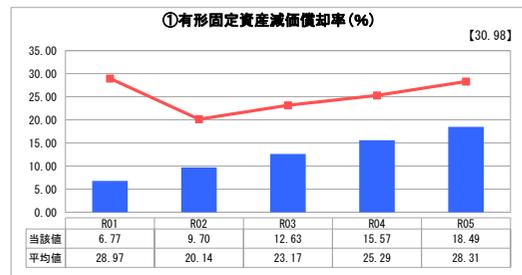
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
46,458	49.94	930.28
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
770	0.12	6,416.67

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市は、令和元年度に地方公営企業法の一部を適用し地方公営企業会計へ移行しました。

①経常収支比率は、100%を超えているものの、⑤経費回収率が46.18%と低く、汚水処理に係る費用が下水道使用料等では賅えておらず、一般会計からの繰入金で補填し、事業運営を行っている状況です。

③流動比率は100%を上回り、1年以内に支払うべき債務に対しては支払いできる状況を維持しています。

④企業債残高対事業規模比率は、全国及び類似団体平均値を下回りますが、公債費を使用料収入のみで補うことができず高い数値となっています。

⑥汚水処理原価は、全国及び類似団体平均値を下回っていますが、前年度に比べ、汚水処理費が上がり、数値がやや高くなっています。

⑦施設利用率は、全国及び類似団体平均値よりも下回っていますが、これは汚水流入量のピーク時でも安定的に処理を行うことや今後の整備による増加を考慮したことによるものです。

⑧水洗化率は、前年度よりやや向上し、全国及び類似団体平均値を上回っている状況です。引き続き水洗化率の向上に努めていきます。

2. 老朽化の状況について

供用開始から20年以上が経過し、有形固定資産減価償却率の状況からもわかるように、施設の老朽化が進んでいます。維持管理費の抑制に向け、施設統廃合等の事業を進めていきます。

全体総括

本市における漁業集落排水事業は、平成12年に供用開始され、現在1箇所の終末処理場があります。供用開始から24年が経過し、老朽化に伴う設備の更新や維持管理費の増加など整備投資が必要であり、非常に厳しい経営状況となっています。下水道使用料については、令和3年4月1日に使用料改定を行いました。今後下水道使用料改定について取り組むとともに、施設統廃合等の事業を進め、下水道事業の経営の健全化・効率化を図って参ります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。